

白壁のうち

小川未明

青空文庫

わたしは、学校がっこうにいるとき、いまごろ、お母さんかあは、なにをなさっていらっしやるだろうか、またおばあさんは、どうしておいでのなるだろうか、と考えかんがます。すると、おうちのようすが、ありありと、目めにうつります。

「ああ、お母さんかあは、おせんたくをなさつて、もう、おわつたころだ。」

「いまごろ、おばあさんは、いつもの場所ばしょにすわつて、眼鏡めがねをかけ、お仕事をなさつてい
るだろう。」と、思おもいました。

早くはやおうちへ帰かえりたいと思おもっていたので、学校がっこうのおわつたときは、ほんとうにうれし
かつたのです。帰かえりは、たいてい、お友だちともといっしよでした。

町まちを出ではずれたところに、お寺てらがありました。そのお寺てらの裏うらは、大おおきな暗くらい森もりになつて
いました。そこを過すぎると、もうあちらに、私わたしたちの村むらが見みえます。そして、まつききに
目めにはいるのは、白壁しろかべのうちです。

「ああ、なつかしい白壁しろかべ……。」

そのおうちが、私わたしの生うままれた家いえです。どこへいった帰かえりでも、この白壁しろかべが目めにはいる
と、私わたしは、もうおうちへ帰かえつたような気がきしました。

「また、あとで遊ぼうね。」

おたがいが別れるとき、こういいました。道が、そこから二すじになっていました。

私は、小道をいきました。道の両がわに、かぼちや畑があつて、黄色な花が咲いていました。くまばちが、みつをさがしに、花の中へはいったり、出たりしていました。頭の上で、日の光が、きらきらとしたが、あちらの青い空には、白い入道雲が、もくもくと出ていました。

私は、赤いほうせんかの咲いている裏口をはいって、元気よく、

「ただいま。」といいました。

すると、やさしい声で、

「お帰りなさい。」と、お母さんが返事をなさいました。そして、にこにこしながら出ていらつしやつたのは、おばあさんでありました。

「暑かつたろう、さあ、はやく顔をお洗いなさい。」と、おつしやつて、帽子や、かばんをはこんでくださいました。

晩方、私は往來で、お友だちと遊んでいました。夕日があかあかと、遠く、白壁にうつっていました。

このとき、包みを肩にかけた、ひとりの旅人が通りかかり、つかれたようすで、汗をふきながら、

「ここから浜まで、まだだいぶありますか。今夜、舟に乘ろうと思うのですが。」と、たずねました。

「二里ばかりあります。」と、私が答えると、

「この道を、まっすぐいけばいいのですか?」と、聞きました。

「そうです。つきあたつたら、右にいきます。」

「ありがとうございます。」と、旅人はていねいに、頭を下げていきました。

私は、うしろ姿を見送り、「どうか、時間にまにあい、ぶじに舟に乘れますように。」と、旅人のために、心から祈りました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 13」講談社

1977（昭和52）年11月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「僕の通るみち」南北書園

1947（昭和22）年2月

初出：「コクミン二年生」

1946（昭和21）年8月

※表題は底本では、「白壁《しらかべ》のうち」となっています。

※初出時の表題は「白かべのうち」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2020年1月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

白壁のうち

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>